

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成 20年 3月 7日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム てまり (鹿児島県)
-------------------	-------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 山下 賀子 氏名 福留 昭
事業所側対応者	職名 管理者 介護支援専門員 氏名 羽根田十郎 松下美子 ヒアリングを行った職員数 4 名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県第4670105099号		
法人名	医療法人 松柏会		
事業所名	グループホーム てまり		
所在地	鹿児島県鹿児島市山田町4-4-1番地 (電話) 099-284-4800		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年3月7日	評価確定日	平成20年3月30日

【情報提供票より】 (平成20年3月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 6人, 非常勤 12人, 常勤換算 8.1	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (H19年9月 30日現在)

利用者人数	18名	男性 2名	女性 16名
要介護1	8名	要介護2	2名
要介護3	6名	要介護4	2名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 83歳	最低 73歳	最高 91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	つかさ病院 櫛下町歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人を母体に、同敷地内で運営しているホームである。広い芝生のグラウンドや専用の畑が敷地内にあり、散歩や家庭菜園が楽しめる環境にある。長い廊下を利用して歩行訓練を行ったり、発声練習を兼ねた朗読をホーム内放送で行うことが日課となっており、入居者の評判も良い。また、季節行事での職員の漫才は好評で入居者の楽しみの1つとなっている。職員は日頃より、入居者の悩みを聞いたり会話を多く持つよう心がけており、入居者が笑って過ごせるよう、入居者第一と考えチームワークよく取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急時の手当て、感染症対策、災害時の対応、研修等の課題は定期的な勉強会を持ち改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価のねらいや意義を職員に説明し、自己評価が自らのケアを振り返る契機となるように、全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議ではホームの活動内容や取り組み状況を報告すると共に、具体的な改善課題を話し合い、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。認知症のビデオ学習や講話等毎回テーマを変えて、提供する取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に、家族の意見や要望等何でも話してもらえるよう積極的に声かけを行っている。出された意見はスタッフと話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行って運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	併設事業所の利用者とはよく交流しているが、ホーム周辺が商業施設という事もあり地域住民との交流が少ないため、小学校、中学校にも働きかけ、交流の場を増やしている。又、ボランティアの受け入れも積極的に行う予定である。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 山下 賀子 / 調査員 福留 昭

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作り上げているが、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容については見直しはこれからである。	○	地域密着型サービスの役割を理念に追加することが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は室内に掲示すると共に、週1回の朝礼で唱和し、毎日のケアに反映するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設事業所の季節毎の行事には参加し交流を図ったり、小学校のバザーなどに出かけている。ホーム周辺が商業施設ということもあり、地域住民との交流が少ないため、小学校、中学校へ交流の働きかけを行っている。		ボランティアや小中学生の体験学習の受入等を積極的に行いながら、地域との交流を図ることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で自己評価に取り組み、ケアを振り返りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームでの活動内容や取り組み状況を報告すると共に、認知症のビデオ学習屋や講話を取り入れるなど、全体として取り組む工夫がなされている。		

グループホームてまり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と連絡を取り合い、入居者の状況について情報交換や相談を行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に入居者の暮らしぶりや様子を報告している。遠方の家族には本人の手紙を同封したり、電話やホーム便りで報告している。金銭出納帳は領収書を添付し、毎月1回家族に報告してサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の意見や要望等、何でも話してもらえるよう積極的に声かけを行っている。出された意見はスタッフと話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の年齢やバランスを考慮しながら、初心に返りマンネリ化しないことを目的とし、1年に1名ずつ両ユニット間での職員の異動がある。日頃より両ユニット間の交流を持つことで、入居者への配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員が交代で参加し、伝達講習を行っている。毎月の内部研修会では、マニュアルが現場のケアに活かせるよう学習会を行っている。又、管理者は職員と個人面談を行い資質の向上につなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「谷山地区グループホーム研修会」に毎月2名ずつ参加し、交流や情報交換の場を作り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

グループホームてまり

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、家族と相談しながら本人の状況に合わせた説明を行っている。場の雰囲気に馴染めるように、ホームの見学をしてもらったり、入居者とお茶を飲みながら交流を図る工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、そば打ち、きんかん漬け、料理、野菜作りを教えてもらいながら一緒に行っている。日頃より一緒に笑い、一緒に歩き、共に分かち合える関係作りを目指している。		
お					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や、日々の生活の中で本人の意向や希望を聞きながら、自分で選択できる場面を多く作り、本人の意向に添った支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族や関係者から意向や希望を聞き、職員の意見等を参考に介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直し、変化に応じた見直しを行なうとともに、適切なモニタリングを行っている。		

グループホームてまり


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	家族と話し合い、必要な場 合は通院の支援を行っている。 又、併設施設と連携をとり、 必要なりハビリが出来るよう 柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居者及び家族が希望する かかりつけ医となっており、 適切な医療が受けられるよう 支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合や急変時には 、その都度家族や医療関係者 で話し合いをもち、方針の共 有を行いながら、本人、家族 の希望に応じた対応がなされ ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや対 応、記録等の個人情報の取り扱 いをしていない	管理者は、個人情報の保護や プライバシーの確保に留意し 、自尊心を大切にした声かけ や対応の仕方を職員に指導 している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとりの ペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希 望にそって支援している	入居者の状態に合わせて、 食事や入浴の時間をずらしたり 、配膳、外出など本人のペース で柔軟に対応している。		

グループホームてまり

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を取り入れ1週間分ずつ作成している。誕生日や行事食も楽しみにしており、調理、配膳下膳の手伝いも無理強いすることなく一緒に行い、食事を楽しむ雰囲気作りを支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は本人の意向を確認しながら、午前、午後に分けて介助している。 入浴を拒む方には時間をずらした声かけや清拭、下半身シャワー等柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を把握し、洗濯たたみ、園芸、調理、三味線、書道、生け花、その他詩の朗読の得意な方にホーム内マイクで新聞や絵本の朗読を毎日してもらおうなど、個別的な支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月1回は1ユニットずつ交代で外食に出かけている。花見やバザー、買い物や散歩など戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初は鍵をかけないケアを行っていたが、入居者の無断外出を機に解放時間が短縮されている。	○	日中鍵をかけることを常態化させずに、入居者が出て行こうとする気配を見落とさない見守りやケアの工夫を、今後の取り組みとして期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設の合同避難訓練とホーム内での避難訓練を行っている。併設施設の職員にもホームの構造や入居者の状況を伝え、協力関係作りをしている。		

グループホームてまり

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分量を把握するとともに、定期的に体重測定を行い栄養状態を把握している。併設施設の栄養士の指導を受け、バランスのよい献立を作成するための、主食、副菜、肉料理、魚料理のカロリーの目安表を作成している。状態に応じた調理内容としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングにはソファが置かれ、畳のコーナーもある。見晴らしも良く明るい雰囲気、入居者の手作りの作品や季節の飾り物が展示され居心地のよい共同空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや布団、たんす、テレビ、仏壇や家族の写真などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。